

2017年1月実績概要（メモ）

（2017. 2. 16）

基礎原料のエチレンを中心として、エチレン系誘導品の生産が増加。

1. 生産動向

イ) エチレン 590, 100トン

前月比 +1.7% (+10, 100トン)
前年同月比 ▲1.8% (▲10, 800トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	-	-
定修要因等	-	+ 1.5%
能力増減	-	▲ 6.0%
稼働率変動	+ 1.7%	+ 2.7%
生産増減率	+ 1.7%	▲ 1.8%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月 98.4% → 当月 100.1% ← 前年同月 97.6%
定修プラント：前月 なし → 当月 なし ← 前年同月 なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、主に稼働率要因から LD、HD、塩ビ樹脂、EO、EG、ベンゼンなどの11品目でプラス。AN、SBR、キシレンなどの6品目はマイナスとなった。
前年比では、稼働率要因等から LD、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、BR、ベンゼン、キシレンなどの11品目でプラス。SM、MMAモノマー、AN、SBRなどの6品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、主として稼働率要因から LD、HD、PP、PS ともにプラスとなった。LD、HD は前月の生産がやや低めであったこともあり伸び率がやや大きくなった。
前年比では、稼働率要因から LD、HD、PP でプラス。PS のみは僅かにマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、本年の年始休暇が例年に比べて短期間であったこともあり LD、HD ではプラスとなった。他方、PP では前月に出荷が増加した射出成形分野の出荷が当月は減少したこともありマイナス。PS は前月の出荷が全般的に高めであったこともありマイナスとなった。
前年比では、LD、HD、PP、PS ともにプラスとなった。出荷分野別では、LD ではフィルム分野、加工紙分野の出荷が増加した。HD ではこれまで前年割れが続いていたフィルム分野の出荷もプラスとなるなど総じて出荷が増加した。また、PP では射出成形分野や押出成形分野、PS では雑貨・産業分野の出荷が増加しプラスとなった。

ハ) 輸出

前月に幾分か輸出量が増加したが、当月は国内向けの出荷が増加したこともあり、再び輸出量は減少することとなった。前月比で LD、HD、PP、PS とも二桁台のマイナスとなった。
前年比では、HD のみがプラスとなったが、その他の3樹脂はマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して LD、HD、PP、PS ともに増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対して LD、HD、PP で前月並み、PS は僅かに上昇した。在庫水準としては LD、PP、PS でほぼ適正、HD は適正からややタイト傾向となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		12月末	1月末
LD	+20,800	2.6	2.6
HD	+10,800	2.4	2.4
PP	+23,800	2.4	2.4
PS	+6,500	1.3	1.5

以上